

# 令和6年度 事業報告書

(令和6年4月1日～令和7年3月31日)

学校法人白井学園

# 目次

## 1. 法人の概要

- (1) 白井学園 建学の精神・教育目的・教育目標・教育方針について
- (2) 法人の沿革について
- (3) 設置する学校・学科について
- (4) 学校・学科等の入学定員、学生数について
- (5) 役員・評議員・教職員の人数について

## 2. 事業の概要

- (1) 各学科の主要資格合格率・就職率等
- (2) 学生募集
- (3) 教育
- (4) 就職
- (5) 組織体制

## 3. 自己点検・評価の概要

## 4. 財務の概要

## 1. 法人の概要

### (1) 白井学園 建学の精神・教育目的・教育目標・教育方針について

#### 建学の精神

★

「一に人格 二に技術」「あきらめない あきらめさせない みんな可能生」

創設者であり、剣道範士であった白井久雄が、昭和22年2月8日、富山文化服装学院の開校式で「剣は心なり 心正からざれば 剣も正しからず 剣を学ばんと欲すればまず心を学ぶべし」と挨拶したなかで、専門技術教育においても、人として何よりも心を重視し、人間味豊かな人材を育成し、あきらめずに学生一人一人の可能性を引き出すという建学の精神が、現在に至っているものである。

#### 教育目的

教育基本法及び学校教育法に従い、専修学校教育を行い、社会に貢献できる有為な人材を育成することを目的とする。

#### 教育目標

専門的知識・技術を修得するとともに、創造性に富む人材育成を図り、地域社会へ貢献できるスペシャリストを養成する。

#### 教育方針

学生一人ひとりの「好き」という思いを「仕事」というかたちで実現するために、それぞれの個性を尊重し、人を思いやる心、感謝の心を育て、自らの良さや可能性に出会える環境づくりを行い、絶対にあきらめない、あきらめさせない強い精神力と努力する力を磨き育てる。

## (2) 法人の沿革について

昭和22年(1947年)	富山文化服装学院創立
37年(1962年)	学校法人白井学園設立
40年(1965年)	富山県立雄峰高等学校白井学級(家政科)併設
42年(1967年)	新校舎完成(3号館)
49年(1974年)	学校法人白井学園 自治大臣表彰
51年(1976年)	専修学校法に基づく学校法人立専門学校として認可 富山文化服装専門学校創立 富山県で初めてパリコレクションを主催
52年(1977年)	イギリス「WEST DEAN COLLEGE」と姉妹校提携
54年(1979年)	富山県の私学で初めて教育功勞により富山県知事表彰
56年(1981年)	北陸ビジネス専門学校創立(1号館完成) 産業能率短期大学(通)併修校に指定
58年(1983年)	学校法人白井学園明るい選挙推進若人の会 自治大臣表彰
60年(1985年)	北陸ビジネス専門学校にコンピュータ学科新設
62年(1987年)	学校法人白井学園40周年記念式典挙行
63年(1988年)	北陸ビジネス専門学校が、通産省「情報化人材育成連携機関」 委嘱校、文部省「職業教育高度化開発研究」指定校となる。 産能短期大学(通)「教育交流校」となる
平成元年(1989年)	富山文化服装専門学校を「富山デザイン専門学校」へ改名
2年(1990年)	北陸ビジネス専門学校が、文部省「専修学校開放講座」委嘱 校となる
4年(1992年)	ウイーン特別州知事の招聘によりウイーンの舞踏会から世界 に向けて和紙ファッションを公開
5年(1993年)	北陸ビジネス専門学校とイタリアフィレンツェ市立経営科学専 門学校が姉妹校提携
6年(1994年)	北陸ビジネス専門学校に「医療秘書学科」を新設
9年(1997年)	学校法人白井学園、創立50周年記念式典挙行 北陸ビジネス専門学校に厚生大臣指定の介護福祉士養成施 設として「介護福祉学科」を新設(7号館) 北陸ビジネス専門学校を北陸ビジネス福祉専門学校と改名
10年(1998年)	北陸ビジネス福祉専門学校に「マルチメディア学科」を新設
12年(2000年)	福祉用具専門相談員指定講習会開催
13年(2001年)	新校舎2棟完成(2号館・8号館)
14年(2002年)	北陸ビジネス福祉専門学校に厚生労働大臣指定の精神保健

平成15年(2003年)	福祉士一般養成施設として「精神保健福祉学科」を新設 富山デザイン専門学校に厚生労働大臣指定の美容師養成施設として「ビューティーアート学科」を新設(6号館完成)
16年(2004年)	作品展示館「白井千穂子記念館」完成
18年(2006年)	富山自動車整備専門学校開校 国土交通大臣指定「自動車整備士養成施設」となる(新校舎・実習棟完成)
26年(2014年)	厚生労働大臣指定「介護福祉士実務者研修講座」を開講
29年(2017年)	学校法人白井学園創立70周年
令和 2年(2020年)	富山デザイン・ビューティー専門学校 ビューティーアート学科 を白井美容専門学校 美容学科と改名
3年(2021年)	医療秘書学科新校舎完成

(3) 設置する学校・学科について (令和6年5月1日現在)

- ・北陸ビジネス福祉専門学校
  - 医療秘書学科 昼間2年制
  - 介護福祉学科 昼間2年制
  - 精神保健福祉学科 昼間1年制
  
- ・白井美容専門学校
  - 美容学科 昼間2年制
  
- ・富山自動車整備専門学校
  - 自動車整備学科 昼間2年制

(4) 学校・学科等の入学定員、学生数について(令和6年5月1日時点)

北陸ビジネス福祉専門学校

学科名	入学者数	入学定員	充足率	在籍者数計	収容定員	収容定員充足率
医療秘書学科	8名	20名	40.0%	13名	40名	32.5%
介護福祉学科	15名	20名	75.0%	28名	40名	70.0%
精神保健福祉学科	12名	20名	60.0%	12名	20名	60.0%
計	35名	60名	58.3%	53名	100名	53.0%

白井美容専門学校

学科名	入学者数	入学定員	充足率	在籍者数計	収容定員	収容定員充足率
美容学科	22名	20名	110.0%	38名	40名	95.0%
計	22名	20名	110.0%	38名	40名	95.0%

富山自動車整備専門学校

学科名	入学者数	入学定員	充足率	在籍者数計	収容定員	収容定員充足率
自動車整備学科	24名	40名	60.0%	45名	80名	56.3%
計	24名	40名	60.0%	45名	80名	56.3%

学園全体

学科名	入学者数	入学定員	充足率	在籍者数計	収容定員	収容定員充足率
合計	81名	120名	67.5%	136名	220名	61.8%

(5) 役員・評議員・教職員の人数について(令和6年5月1日現在)

・役員

理事 6名(うち、理事長1名、常勤理事2名)

監事 2名(うち、常勤監事0名)

区分	氏名	常勤・非常勤の別	任期
理事長	白井千威子	非常勤	3年
理事	高村正志	常勤	3年
理事	萬谷正子	非常勤	3年
理事	田中雅子	非常勤	3年
理事	福井淳夫	非常勤	3年
理事	焼田健二	常勤	3年
監事	津幡正夫	非常勤	3年
監事	富山定子	非常勤	3年

・評議員13名(うち、常勤評議員9名)

・教職員

北陸ビジネス福祉専門学校

専任教員10名、兼任教員35名、職員5名

白井美容専門学校

専任教員4名、兼任教員10名、職員6名

富山自動車整備専門学校

専任教員5名、兼任教員0名、職員5名

## 2. 事業の概要

年度当初に掲げた基本方針・重点目標のもと、計画を立案し、事業を実施した。学校法人臼井学園は、令和6年度、専修学校3校5学科を有する。学園全体の学生数は、令和6年5月1日時点で、136名在籍している。

### (1) 各学校・学科基本情報及び事業活動(資格合格率・就職率等)

各学科、主要目標資格合格率並びに就職率100%達成を目標に、教育活動を行った。(令和6年度卒業生実績)

学科	主要目標資格	合格率	就職率
美容学科	美容師(国)実技	93%	100%
	美容師(国)筆記	93%	
医療秘書学科	日本医師会認定医療秘書	100%	100%
介護福祉学科	介護福祉士(国)	92%	100%
精神保健福祉学科	精神保健福祉士(国)	92%	83%
自動車整備学科	2級自動車整備士(国)	100%	100%

### (2) 学生募集

今年度の学生募集(令和6年度入学者数)は、法人全体で81名(前年比118%)であった。前年対比では好転しているが、大学全入時代、18歳人口の減少等の環境要因により、募集状況自体は厳しいものとなった。平成28年度～令和6年度の9年間のデータで見ると、母集団数は2番目に少なく、来校者数は1番少ない数字となった。学園の課題として、広報展開の礎となる母集団数の確保が喫緊の課題として、令和7年度の広報展開を行う必要がある。母集団数(資料請求者数並びに来校者数)の確保を行なったうえで、出願者数・入学者数の推移を辿り、その結果をもって、強化ポイントを見つけていき、改善していかなければいけない。

全国的な傾向を見ても、将来4年制大学と専修学校の学校種がそれぞれの特長を生かしながら共存していくと想定される中で、専修学校として4年制大学では得ることのできない、できにくい教育を常に模索し、学生へ還元していくことが必要となる。その取り組みは教育力の向上を促すと同時に、広報力にも大きく影響してくる。

18歳人口市場は何年も先まで概算値は出ているため、どのタイミングで何を行っていくか、学園としての将来構想構築が必要である。

### (3) 教育

本年度は、学生がより幅広い知識と技術を身につけられるように、医療秘書学科では医療事務・医療クラーク専攻と調剤登録販売者専攻を、介護福祉学科では美容プロデュース専攻とヘルスケア専攻のコース制を導入したところ、学生からも選択したコースで学んだ内容についてさらに学びたいなど前向きな意見が聞かれ、導入した効果が実感でき、今後はコース制の内容の充実を図りたいと考える。また、職業実践専門課程認定学科の2学科を中心に、他の学科もより一層、産学連携による専門的な新しい知識や新技術に学生が触れられる場を設ける様に積極的に講演や実演を取り入れた授業を企画し、各学科の学生に、これからの職業人に求められる技能・知識を学ぶ機会を提供できた、さらに第一線で活躍されているプロフェッショナルな方々からの成功体験や職業世界の今を知ることで、学生の将来に対しての意識付けができたと考える。産学連携授業においては、教員も専門分野で今必要とされる最新の情報を得る機会とし資質向上に努めることができた。日々の授業では新しく入学してくる学生は、パソコンやタブレット、視聴覚機器を使った授業に慣れ親しんできている世代であると実感する、本学でも対応していく必要がある。

### (4) 就職

今年度3月末時点での就職内定率は学園全体で約97%であった。学園に届く求人においては、各学科の想定される就職先以外の他業種からの求人も多くみられる状況となっている。どの業種においても人材不足による売り手市場となっていることも有り、業種による違いは有るが給与などの待遇面が上がっている中での就職活動となっている。本学では少人数教育を取り入れおり、担任制を取っていることで専攻の分野外に就職することは稀であるが、同一の職種内でも就職先企業の選定や分野で悩む学生の姿が見受けられた。学生が多様な価値観を持つようになったことや、各分野内でもさらに専門性の高い職種に細分化されていることが原因と思われる。就職活動に臨む学生に対しては、就職セミナー、メイクアップセミナー、スーツの着こなしセミナー、電話応対セミナーなどを受講することで、環境を整え学生の就職活動に対する不安を少なくするように配慮した。また履歴書の作成で文書表現や書き方の指導を必要とする学生が多く、個々に履歴書の確認を行うなどの対応をした、面接の指導では所作はもちろんのこと、複数の教職員により様々な質問に対して返答できるように繰り返し練習を施した。就職の課題としては、委託訓練生など働いた経験のある学生や、支援の必要な学生など、個々への対応が求められる状況が増加している。

## (5) 組織体制

学園内に、教務委員会・広報委員会・行事研修委員会の部門を設置し、各委員会内の業務について担当者を設け漏れの無い体制とした。また、経営会議・委員長会議・総務課会議を定期的実施することにより、各会議での決議事項を教職員間に全体会議にて共通の認識とすることを徹底した。

## 3. 自己点検・評価の概要

年度当初の事業計画に基づき、健全な学校運営、教育活動および個性の輝く学生支援のために、特に次の項目に重点を置いて、点検・評価項目の見直し等を行い、関係部署(各学科・各委員会・学園総務課)との連携を強化し随時行った。また、定期的に計画(P)・実行(D)・点検(C)・分析改善(A)を行った。

### ・教育環境(施設設備)の整備について

より良い教育環境となるように必要に応じて教育用機器・実習機材の導入を行った。また校内の設備について電話回線を光回線に移行した、空調設備(エアコン)や照明器具について順次取替を行い、給排水設備(トイレなどの水回り)のメンテナンスにより改善をするとともに、能登半島地震による校舎への被害についても修繕を行い環境の維持に努めた。

### ・養成施設等の自己点検・評価について

養成施設指定の自己点検表等により全学科で実施し、改善項目については各学科長が改善内容・時期・今後の課題等を改善対策シートにまとめ、必要に応じて改善を行い、また今後の課題についても取り纏め教務委員長より、校長及び理事長に報告を行った。

### ・教職員の資質向上について

教職員のFDを2学科の教員を中心に実施し、学園教職員による事後研修により、意見交換し授業の進め方や、学生の興味を引き出す方法など、教員の資質の向上を図った、また教職員研修会を8月に行い、「やる気を引き出す言葉がけ」言葉の力を味方につけて、応援力を高めよう、について講義を受け、多様化する学生や保護者、また教職員間に対しての対応力を養った。

### ・学生による学校評価調査について

在学生を対象に「学生評価アンケート」を実施し、教育・施設設備・学生生活・要望の4項目を中心に行い得た結果から、教員が考えるべき内容について教務委員会及び全体会議にて共通認識を図った、また設備等については優先度の高い

物から順次対応するように対策した。

- 個人情報管理の徹底について

学園内で保有する個人情報について、ネットセキュリティの更新・施錠等の一括管理を徹底した。

- 情報公開について

令和5年度の事業報告等をホームページで公開した。

- 学校関係者評価の実施について

各校にて学校関係者評価委員会を開催し、各専門分野の業界や企業・関係団体、卒業生の方々から教育活動や学校運営等に反映するべき貴重な意見・助言をいただいた。また、その内容結果について、学校関係者評価報告書として公表した。

\*令和6年度自己点検・評価報告書、別添を参照とする。

今後において、教育活動・教育環境のさらなる充実を図るため、社会のニーズを的確に認識した将来構想(中期計画・長期計画)を計画し、組織が有効に機能するよう取組みの改善を行い、より健全な学校運営に推進することが必要である。

#### 4. 財務の概要

質の高い専門学校教育を継続するためには、経営基盤の安定が不可欠であり、早期に自らの経営上の課題等を把握し、経営状況の分析を適切に行った上で、自らの進むべき方向性の検討・判断材料としたい。

下記詳細については、別添を参照とする。

- 財務諸表について

事業活動収支計算書、資金収支計算書、貸借対照表、財産目録、監査報告書

以上